

上牧町人口ビジョン及び地方版総合戦略（素案）に対するパブリックコメントへの回答

■全体

意見（要約）

①

タイトルの部分で、「上牧町人口ビジョン及び地方版総合戦略」とありますが、他の市町村のものを見ているとあまり「地方版」という文字を引用されていないように思います。

②

出生率が上がらない限り、他の市町村も当町と同じような人口ビジョンを考えることが盛んになり、単に人口の取り合いだけになってしまう恐れも十分ある。また、大きくなることは良いことだと、必ずしも言えません。ほどほどの規模で元気な町であれば良いという発想もある。この点も忘れてはならない。予算も必要ですから優先順位をつけて推進していただきたい。

③

素晴らしい戦略案ですが、実際に具体的な実行レベルになると成果を出すのはなかなか至難の業だと思います。

回 答

①

タイトルを「上牧町人口ビジョン」及び「上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に修正します。

②

上牧町は近隣自治体と同様に人口減少、少子高齢化が課題として挙げられ、特に若者の転出が深刻化しています。

人口増加への取り組みは必要と考えますが、本町としましては、進学・就職で転出した若者が将来的に上牧町に帰ってくるができるよう、受け皿（住宅、子育て環境等）を用意することが重要と考えます。

これまで培ってきた住宅都市としての良好な環境は維持しつつ、上牧町出身の若者が再び戻り、結婚・出産・子育てがしやすい住環境を用意して参りたいと考えます。

ご指摘のとおり、肥大成長するのではなく、教育、福祉を中心にきめ細やかな施策を展開し、住民の皆さまが安全に安心して暮らせるまちづくりに取り組んで参ります。

③

貴重なご意見として承りました。当ビジョン及び戦略は上牧町の喫緊の課題を解決する重要な計画と考えます。絵に描いた餅にならないよう、PDCAサイクルを機能させ、着実に実行して参ります。

上牧町人口ビジョン及び地方版総合戦略（素案）に対するパブリックコメントへの回答

■人口ビジョン

意見（要約）

①

町の人口減少に対応するには、合計特殊出生率（以下、出生率）を上げるか、定住者を増やすことが基本である。原案は総花的で、施策を推進したが結果的に計画通りには進まなかったということになるのではないかと危惧する。特に出生率現1.09を1.60（H32年）にアップは簡単ではない。

回 答

①

出生率1.60（H32年）につきましては町の現状を踏まえると達成しなければならない目標であることから、出生率増加に向けて町民・地域団体・民間事業者・行政が一体となり取り組んで参りたいと考えております。

なお、素案74頁の総合戦略の進行管理のとおり、本戦略では施策の実施状況を数値化し、進捗を管理して参ります。毎年、達成度の検証を行うとともに、PDCAサイクルの確立を通じて、各施策や取組みの改善を図って参ります。

上牧町人口ビジョン及び地方版総合戦略（素案）に対するパブリックコメントへの回答

■総合戦略

意見（要約）

①

P53のアンケート調査結果のなかで、各種結果を掲載されていますが、上牧町の良さの結果が掲載されていないのではないのでしょうか。アンケートの中で良さの部分も聞き取りしているのであれば掲載してはどうでしょうか。

②

出生率のアップは、きわめて重要ですが、時間がかかる問題であり国全体として対応すべき課題である。それに関連する施策は町単独でとして対応できることは限られると思う。例えばその施策として特に重要と思われる。所得増加（最低賃金をもっと上げる、非正規従業員の収入増加）、貧困層の救済（父子、母子家庭）、等は国として積極的に推進すべき課題である。

従って、当面は定住者増の推進に重点を置き、如何に夜間人口を増やすか、転入者を増やし転出者を減らすことで住み続ける人を増やすかが重要である。上牧町は、今更産業立地は無理であり、大阪を中心とした周辺のベッドタウンとして生きていかざるを得ない。そして特に若い世代の定住者増が重要である。

そのためには上牧町に住んでみたい、住んでよかったですと思われる魅力ある町であらねばならない。それは、第一に公教育充実とレベルアップ、第二に住環境の充実の二つだと思ふ。

公教育充実：小学校、中学校連携した教育活動（小中一貫校も視野に）。学力アップ（目標、西大和学園の競争相手になる）。また、いじめ対応や困窮、破綻家庭対応にそれぞれ選任の先生を置く。（私は、1対1での争いは単なるけんか（先生の前で堂々とけんかしたらよい）、1対Nでの争いがいじめ、と定義したい。第三者機関で調査するという必要は全くない。）

住環境の充実：住みやすい、潤いのあるまちづくりが必要。今のままでは中途半端な町になってしまふと心配である。最近の新築の家には、緑の匂いがない。街路樹もなくなったりして、西部劇にでてくるタウンのようになりつつある。また、高齢化で買い物難民が増えていると言われ、一方では運転免許の返上をと言われる。ユニーがきて高齢者は便利になったのでしょうか。そこで歩いて15分くらいで、役場にも行け、買い物もできる。健康増進にもなる。そういうコンパクトシティを考える。こんな発想も必要である。

回 答

①

ご意見のとおり、上牧町の良さについても記載します。

②

ご指摘のとおり、本町としましては転入者を増やし、転出者を減らす努力が必要と考えております。そのため、本総合戦略においても、子育て環境の充実や定住促進によって転入者の増加、転出者の減少に取り組んでまいります。また、近年は進学や就職により上牧町を離れる若者が多いのですが、そのような若者が上牧町に再び戻ってくるようなきっかけづくりについても取り組んでまいります。

公教育の充実につきましては、就学前教育の充実や学習支援教室の開催など、学力向上に取り組めます。なお、現時点では特定の児童に対する専任教師の配置は予定しておりません。

住環境の充実について、ご指摘のとおり、住みやすく潤いのあるまちづくりが必要と考えております。そのため、ハード・ソフトの両面において充実を図り、これまで培ってきたベッドタウンとしての住環境を維持しつつ、若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を提供することで、家族構成の変化や年月の経過等に伴う世帯のニーズの変化にも、町内において切れ目なく対応できる受け皿の整備に取り組んでまいりたいと考えます。

なお、コンパクトシティとしてより充実を図るうえで、公共交通の利便性の向上に取り組み、なかでも町内を循環するコミュニティバスについては、高齢者や移動困難者向けの交通手段であることから、今後も周知に努め、利用促進に取り組めます。